

平成 29 年度後期 「霞ヶ浦湖岸植物同好会」 観察活動の報告

今期の課題：H区で第Ⅱ期自然再生工事も最終段階に入り関連区域の植物悉皆調査。絶滅危惧種等の経過観察。

月/日	観察区	湖岸植物観察概況 (EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧種、特外:特定外来生物)
10/11	AB	A区水際でヨシやマコモが果穂を付け、ヒメガマの穂がばらけ始めた。B区ミズヒマワリ(特外)は花盛り。
	EFGH	再生事業が進むH区で サクラタデ が開花し、コカナダモ、カワラスガナ、ヒロハノコウガイゼキショウが新出。
	KL	K区ヌルデに実が付き、L区堤脚水路でオオフサモ(特外)に混じってミズアオイ(NT)が花を咲かせていた。
11/8	AB	つる植物のカラスウリやスズメウリ、ノブドウ等の実は色付き、 センニンソウ が果実から白い毛を出していた。
	EFGH	低地にオギの白い穂が並ぶ。E区のサネカズラが赤い実を付け、H区干潟でササバモ(VU)が健在だ。
	KL	川尻川堤で立木に絡だタンキリマメ(VU)の莢果が裂開した。堤内法面のアサマスゲ(県 EN)の葉が成長。
12/13	AB	冬枯れの低地はオギの白い穂、ヘクソカズラやオオオナモミの枯実、メリケンカルガヤの枯茎が並ぶ。
	EFGH	ワンド整備が進むH区のヨシ、地上部が枯れ白い長毛の果実を散布中。E区のオニグルミが伐採された。
	KL	湖岸はセイタカアワダチソウやオギの毛を付けた実が舞い、ジャヤナギやイヌザクラなどの裸木が目立つ。
H30 1/10	AB	真冬の湖岸は地上部が枯れたヨシ、オギ、ヒメガマ等が目立つ中、ヨモギの枯れ茎の根元で若芽が育つ。
	EFGH	EF区で冬緑のヒガンバナやタブノキ、アオキ等の常緑樹が目立つ。ヤエムグラなど越冬草の緑色葉も。
	KL	法面で メマツヨイグサ やハルジオンのロゼットが光を浴び、畔でタネツケバナが花や実を付けていた。
2/14	AB	霜で葉が傷んだヒメオドリコソウやコハコベが花を咲かせ、弁天前のセンニンソウは実の白い髭が開いていた。
	EFGH	寒さの緩んだ湖岸ではカワヤナギの芽が動き出し、低地ではクサヨシやヨモギの枯れ茎の根元に若芽。
	KL	立春を過ぎ、川尻川畔のヤブツバキは蕾から花弁が、道端のオオイヌフグリや フラサバソウ の花が開いた。
3/14	AB	堤防法面はオオイヌフグリや ホトケノザ の花で春の訪れを感じる。水際でヨシの根元に筍状の新芽。
	EFGH	気温上昇でE・G区のノウルシが芽を出した。タチヤナギの冬芽が開き、カワヤナギは雌花雄花共満開だ。
	KL	湖岸のオノエヤナギが蕾を付け、堤防法面でスギナが土筆(胞子茎)を出し、一部では栄養茎も見られる。



10月H区**サクラタデ**(タデ科)多年草 11月A区**センニンソウ**(キンポウゲ科)多年草 12月H区**ヨシ**(イネ科)多年草 霞ヶ浦分布は本州以南。淡紅色の花を付ける。果実から伸びる白い毛を仙人の髭に例えた。の代表種。水質浄化植物として期待。



1月K区**メマツヨイグサ**(アカバナ科)越年草 2月L区**フラサバソウ**(オオバコ科)越年草 3月B区**ホトケノザ**(シソ科)越年草 北米原産。法面でロゼット葉が光を受ける。欧州原産、這い性が強く葉・茎に毛が多い。半円形の葉が仏像の台座に似る。